

防災と省エネに補助金

来春開業のホテルアンテルム那覇

環境省 宿泊施設で全国初



ASAKAが那覇市に建設中の新ホテル「ホテルアンテルム那覇」の完成予定図（ASAKA提供）

県内の電気空調設備業者でつくる沖縄CO2削減推進協議会（瑞慶覧長臣代表理事）は14日、不動産開発を手掛ける「ASAKA」（那覇市、高野哲朗代表）が那覇市前島に建設中で来春開業するホテルアンテルム那覇が、環境省の防災ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）補助事業の交付決定を受けたと発表した。同事業の交付決定は県内初。宿泊施設では、全国初になるという。

ZEB補助は建物の大きさによって消費される空調や換気、照明、給湯、昇降機の電気やガスのエネルギー使用量の基準値を、国が設定。建物の所有者が省エネ設備や材料

などを導入して、エネルギー使用量を50%以上削減すれば交付対象となる。

ホテルアンテルム那覇は鉄骨造り7階建てで、延べ床面積は5756平方メートルの全126室。国の基準では、年間1万2493キロワットのエネルギー消費量となる。

遮熱効果の高いガラスや省エネルギー性の空調設備、自動で点消灯する発光ダイオード（LED）照明などを導入し、年間の消費量を54・4%削減した。

那覇市と津波時に緊急避難する施設の使用で協定を結び、災害時の電源供給のため、ホテル内に太陽光発電設備と蓄電システムを導入

する。災害時対応の機能を備えたことで防災ZEB補助の基準も満たし、交付が決まった。

省エネ機器の購入・設置に掛かる費用3億円のうち、3分の2の2億円が交付され

る。年間28889万2千円の電気料金、5649トンのCO₂削減効果がある。

高野代表は「宿泊客へ、自然を大切に観光地としてのイメージ発信につながれば」と話した。